重野なおき

Shigeno Naoki presents

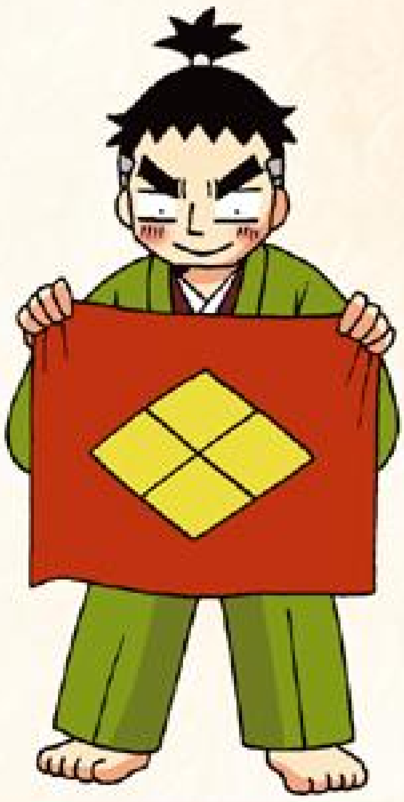
真田魂

さなだだましい



2

YOUNG ANIMAL COMICS



重野なおき

Shigeno Naoki

大学四年間を山梨で過ごす。

Cover Design:Kohei Nawata Design Office

真田魂

さなだだましい

2

重野なおき

C O N T E N T S


天正十年（一五八二年）織田勢に攻められた武田勝頼は真田家の人質を解放
真田一族は当主・昌幸の待つ真田郷へと向かう
⑳真田一族の大移動
防御より機動を
いつ野盗や織田軍に襲われるかわからない…
急ぎましょう!!
母上ー大丈夫ですかー
ええ 装備はばっちりです!!
ぜーはー
もう歩けません…休みましょう…
我々が戦いますから甲冑脱いで!!

やってみたかった



できるか!!



どこから出したの？



よく嫁に行けた



大物狙い



ほめてほしかった



新手


追い払ったがまたいつ襲われるかもしれん!! 先を急ぐぞ
おー
さっきは野盗だから何とかなったが…
もし織田や北条の軍だったら…
はぁ
はぁ
ザッ ザッ ザッ
はるか前方から訓練された軍勢が二百…いや三百!!

枯れる気配が無い

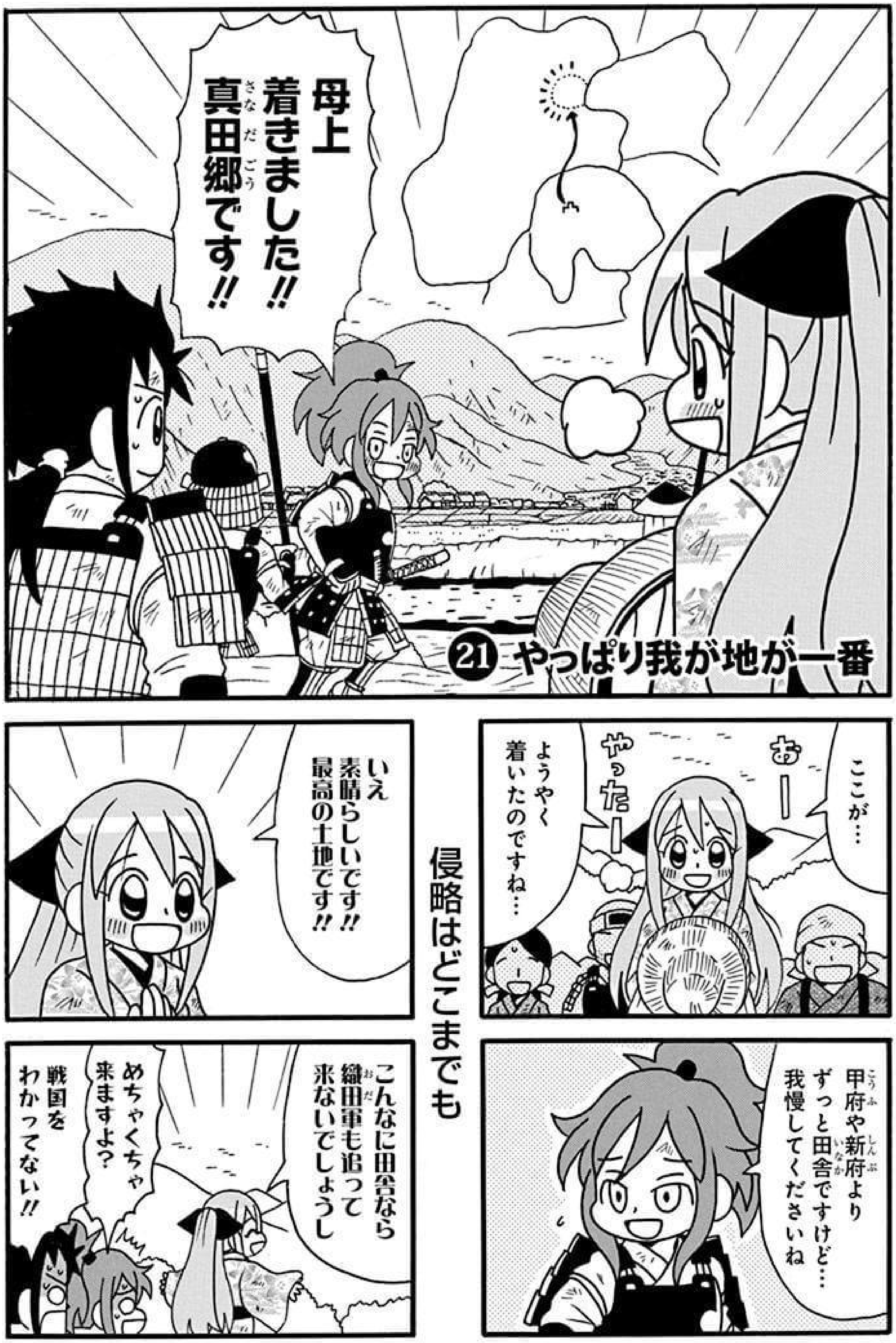

…信幸!! 信繁!!
あなたたちは逃げなさい!!
母はここで自害して果てます!!
あなたたちは真田の大事な後継ぎ!! こんな所で死んではなりません!!
母上…
私たちが死んでもあの父上ならまた子供たくさん作りますよ?
まーそんな気はしますけども

見慣れた印



もうひと逃げ





母上
着きました!!
真田郷です!!
21 やっぱり我が地が一番
ここが…
おー
やったー
ようやく着いたのですね…
甲府や新府より
ずっと田舎ですけど…
我慢してくださいね
侵略はどこまでも
いえ
素晴らしいです!!
最高の土地です!!
こんなに田舎なら
織田軍も追って
来ないでしょうし
めちゃくちゃ
来ますよ?
戦国を
わかってない!!

修業相手



あっ 信繁様だ
おーい 信繁様ー
あっ みんなだ!! 兄上!! 紹介しますね!!
私は武田の人質だったから真田郷は初めてだが
信繁は度々行き来して馴染んでるんだったな…
私が親しく付き合っている女子達です!!
どうもー
はは もてるんだな おまえ…
あと好敵手の熊太郎です!!
おーい
ガウ
いい!! 呼ぶな!!

立入禁止



山手!! 皆の者!!
よくぞ無事に辿り着いた!!
と…殿ぉ!!
うわあぁぁん
もう会えないかと思いました…
おいおい よさないか こんな所で
今 陣幕張るからな♡
ばさっ
よ よしてください こんな所で!!

耳でも可


信幸 皆をよく率いてくれた
はい!! 頑張りました!!
父上!! 私 野盗の親玉の首を取りましたよ!!
うむ!! 聞いている
だが先を急ぐ時は野盗の者など捨て置けばよいぞ
すみません つい嬉しくて…
そーだぜ「鼻そぎ」で充分手柄になるんだからな
村松はもう少しおしとやかになれ!!

愛が激重


真田氏館
ここで皆で暮らすのですね!!
うむ!!
ぴく
それにしても信繁は手が早いですねー もう仲良くしてる女子がたくさんいるようで…
すまぬ ワシもこっちで側室たくさん作ってしまった
はじめまして!!
よかったー あなたの愛情を一身に受けてたら体がもちませんから
てきとーに分散させてください
ちょっと複雑だな…

当主の顔



武田家臣の意地



念入れすぎ



最悪がよぎる



主か民か


小山田信茂の居城
岩殿城
皆の者!!
勝頼様を迎える準備はできて…
殿!!
何ゆえ勝頼様を招き入れるなどと申しました!!
他の将は次々と織田や徳川に降っているのに!!
我らだけ滅亡の憂き目に遭うのは割に合いませぬ!!
何よりも!! この地の民の事をお考えくださいませ!!
勝頼様を追ってきた織田軍により戦火にさらされ皆殺しになりますぞ!!

最後の裏切り


大
そうか…
おまえもか… 小山田…



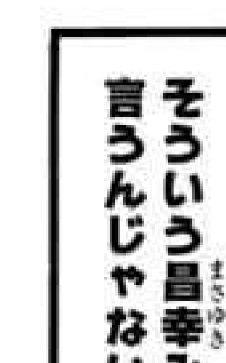
22 最強武田家の終焉
天正十年
三月十一日
甲斐国東
天目山——
ついて来たのは何人だ?
四十一人と…あとは女子衆です
皆 次々と逃げたり織田に寝返ってしまった
残った重臣はワシくらいのもの…
そうか…
もう…逃げきれんな…
あ!! ワシ今 武田家臣団の頂点に立ってんじゃね?
出世極まれりィィ!!
いいのかそれで

愛こそがすべて



台無しだ!!





今ならわかる


織田軍の追手が迫っております!!
土屋殿が交戦中!!
ざわっ
父上!! 継母上!!
私が一人でも多くの織田兵を討ち取って参ります!!
勝頼前妻の子
信勝
うむ!!
ワシに似て勇猛な子に育ったものよ…
討ち取った敵の数だけでも父を越えてみせますぞ!!
うおおおお
意味無い所まで似ちゃったかー…

頼みの蔓


ズバッ
キィン
ガキッ
はっはっはー!!
この土屋昌恒がいるかぎりこの細道は何人たりとも通させせん!!
土屋は蔓につかまりながら片手で織田兵を何人も斬り倒したといわれる
まず蔓狙った方がよくね?
だな
キリキリ
ちょっそれ反則だろ!!

先に逝く者


どすっ
これだけ粘れば…
長篠で散った兄上（昌次）に顔向けできるかな…
「片手千人斬り」土屋昌恒 討死
ここまでか…
最後に武田の嫡男として意地は見せた
それだけでも満足だ
武田信勝 自刃

知られ方が


ザッ
どこだ武田勝頼ー
勝頼様は今最期の時を迎えようとしている…
ここはこの長坂釣閑斎が通さん!!
長坂？
あの長坂釣閑斎か!!
知られていたか…悪い気はせんな
あの奸臣の!!
出世欲のかたまりとして有名な!!
いややっぱムカツクなぁ!!

側近の叫び



奸臣と呼ばれた男



十九歳の自決



最強の終わり





㉓ワシの行く道は
う
ううううう
今は…そっとしておきましょう
しかし母上…
私たちが危ない
うわああああああ
父上…
あああああああ
ほら荒れると見境無くゲタを投げるんですよ!!

どう違いが


勝頼様が…
武田が…滅んだ…
ワシならば…こんな末路は迎えさせなかった!!
小山田信茂などに裏切られるとは…
これだから石ばかり投げてるヤツは信用できぬ…
ゲタならいいんですか?

それはそれ


しかし
小山田の行動も理解できる…
ヤツはヤツなりに自分の「家」と「土地」を守ろうとしたのだ…
武士にとって大事なのは家と土地を守る事だぞ
むしろ間違っているのは
家も土地も危険にさらそうとしたワシの方かもしれん…
だが理解できるが許す事はできん!!小山田ぶっ殺す!!
父上おちついて!!
一説によると昌幸は小山田を攻めようとして止められたといわれる

※生涯ほぼ現役


ふう…なんとか止められた…
おつかれ様 信幸
しかし…何かと強引な父上や…
奔放な弟…無茶な姉上…無知な母上に囲まれて…
無知？
ガーン
私 絶対早死にする気がする!!
しかし逆に鍛えられたのか93歳まで生きる
キリキリキリ

再会


ワシは幼少の頃より信玄様のお側で学び…
勝頼様と共に武田家を立て直した…
武田家はワシのすべてだったのだ
どうしたらいい
ワシはこれから…どう生きればいいのだ…

いいのか今後



ダメもとで



目の前に


殿を失ってはワシにはもう何も…
あるじゃないか
おまえにはまだ
それを…大切にするんだぞ
殿…

思い出した


殿…大丈夫ですか？
さっきからうわごとを…
がばっ
え？
そうだ…ワシはすべてを失ったわけではない
この真田の土地と…家族がある!!

責任重大すぎ



まじめな信幸くん





24 戦国家族会議
──これが現在の状況だ
上杉
真田
織田
北条
徳川
織田軍の行動しだいでは明日にでも真田は滅ぶ!!
現状理解
…そんなに織田家は強いのですか?
うむ
織田家の強さを「百」とすると──
北条家が「二十」
上杉・徳川が「十」程度だ…
へー
真田家は?
せいぜい「一」だな…
うわあああ
ウチがゴミのようだ!!

聞くんだ



父上の分析は外れた事が無いからな…
ゴク…
はい…
そこまで切羽詰まっているのですね…
だったら…
辞世の句を作らなきゃ…
あきらめるな!! 真田魂はあきらめない!!
「我が殿と出会えて私は幸せで…」
う 嬉しいな 早く下の句を!!

心配無用



父上!!
ばっ
私には父上の気持ちが痛いほどわかります!!
織田がいかに強かろうとあきらめず!!
武田を討った憎き織田に一戦挑みましょう!!
全然わかっておらん
あれ?
憎しみや義理などに縛られるな…
そんな事では早死するぞ!!
は はい!!
しかし信幸はその後93歳まで(略)

教育し直す



考えを根本から変えろ!!
武田はもう滅んだのだ…
これからは真田家が生き残るためだけに!! あきらめずに死力を尽くすのだ
よいな!!
ははっ!!
という事は… 今後の方針は…
どこかの勢力に従属すると…
もしくは私が忍びこんで信長を暗殺…
その通りだ 信繁 村松は後で話がある

直感の正解



従属するとなると義理固い北の上杉か…
ツテのある東の北条じゃな
ワシャ好かんがな
あ
どうせなら一番強い織田に従うというのは?
安泰っぽそう
また母上はー!! 織田は武田を滅ぼした相手ですよ!!
旧武田家臣の父上が降伏したら殺されるかもしれませんよ!!
ごめんなさいー
いや山手の言う通りだ
なんですとー!

現実



真田家は織田に付く!!
――というかそれしか道は無い!!
ざわっ・・・・
はじめは北条に…と考えていた
しかし織田軍の侵攻が予想以上に速かったせいで…
北信濃・上野国の国衆(小領主)は我先にと織田に降ってしまった!!
真田領
つまり周りは敵だらけ…北条とも上杉とも悠長に交渉してる暇など無い
ぐ……
主君を討った相手に頭を下げねば生き残れぬ
それが今の真田なのだ…

悲哀中の幸い

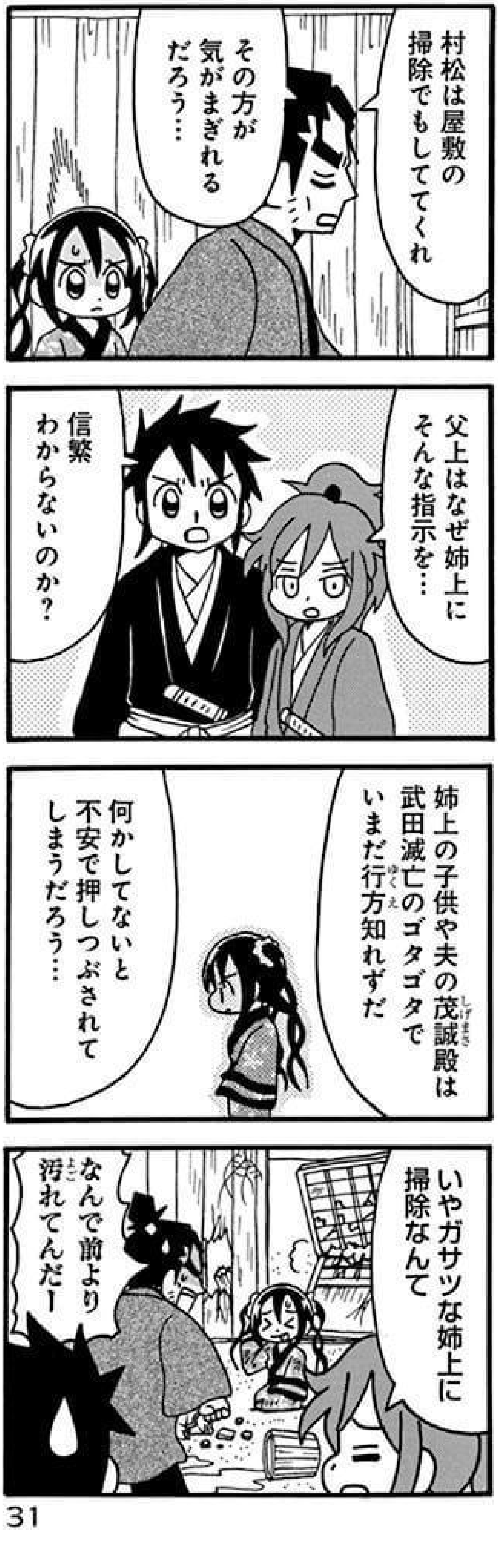


しかし織田信長が父上の降伏を受け入れますか?
父上は武田の重臣!! 呼び出されて斬られるやも…
そこは大丈夫だ
ワシは北条とばかり戦っていたおかげで織田には名が知られてないはず…
ぶっちゃけ雑魚あつかいだから殺されまい
ははは…
悲しい!!

完璧な指示



気がまぎれただけ



会議した意味が

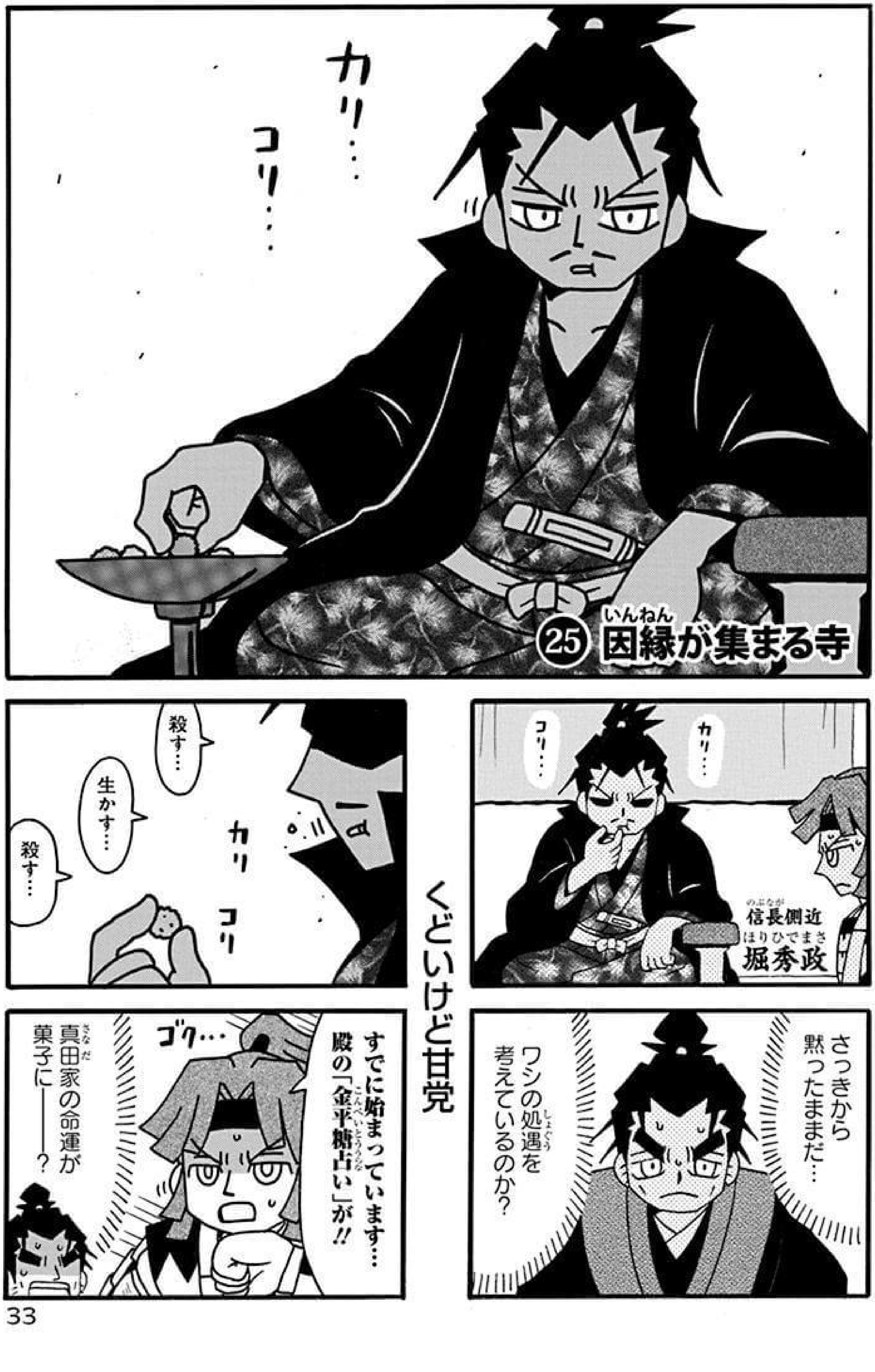


チュン チュン
父上!! 私も共に参ります!!
私も!!
だめだ
ワシに万が一の事があった場合 信幸は真田の当主になるのだぞ
信繁も兄を支えねばならん… 二人とも残るのだ
あ…
殿…どうかご無事で!!
これでお別れなんて嫌ですからねー
ワシも嫌だ やめたくなってきた
行ってくださーい 一刻を争うんでしょー

危険視



三月某日 諏訪 法華寺
この者は
はっ
真田昌幸なる者です
これが織田信長…
そうか 信玄から「我が眼」と言われ
軍略のすべてを授かり
勝頼の重臣として沼田城をはじめ上野国の諸城を調略で落とし
新府城の築城にもひと役買った
あの真田昌幸か
ドクン
知られている… まずい!!


カリ…
コリ…
㉕因縁が集まる寺
カリ…
コリ…
信長側近
堀秀政
殺す…
生かす…
殺す…
カリ
コリ
くどいけど甘党
さっきから
黙ったままだ…
ワシの処遇を
考えているのか?
すでに始まっています…
殿の「金平糖占い」が!!
ゴク…
真田家の命運が
菓子に――?

心臓もたない



同志だったか



もう忘れた



わざわざ指摘したという事は…真田を助けたいのか？
カリ
はっ!!
殿は拙者に上野国を与え東国攻略をお任せくださるとの事!!
それには配下に優秀な人材が一人でも多く欲しいのです!!
滝川殿…感謝いたす
この御恩は忘れませぬぞ!!
でも武田勝頼を自害に追い込んだのおまえの隊だよな
ゴオッ
あ

条件



おっといかん
それはもう過去の事
降伏をお認めくださるのであれば喜んで滝川殿の下につきましょう
ふむ…
よかろう
降伏を認める
ほっ…
ただし
ガサ…
真田領のうち沼田城と岩櫃城は没収とする

ヤケクソ中



完全実力主義



耳に大ダコ



慣れきっててる



法華寺の殴打事件



運命の交差点





26 真田家は衰退しました
そわそわ
そわそわ
殿は…まだでしょうか…
ご無事だと良いですね…
長男・信幸の妻
清音院殿（本名不明）
「きよね」は仮の名
うっわ清音ちゃんいつからそこに!!
ずっといましたけど…
正室なのに存在が消えそうなくらい目立たない女性である

かなり近くに



夫でさえも



ふんづけた



いやがらせっぽい



紙一重


ドゴッ
ミシ
ミシ…
沼田城は叔父上が長年守ってきた城…
奪われる気持ちはお察ししますがどうか堪えてください
その壁のとこ清音さんいます
あっぶねー!!

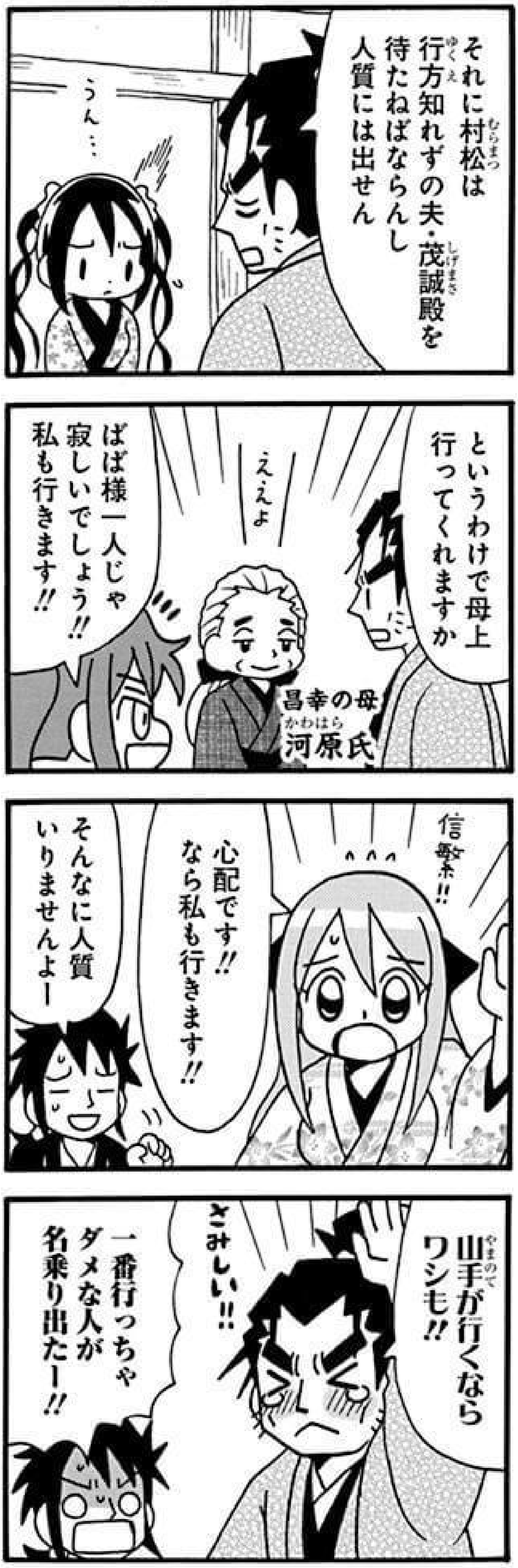
裏条件


真田家が生き残るためなら城は渡そう
だがな昌幸 領地は手柄しだいと言うが…
今後どうやって手柄を立てろと言うのだ?
信長の天下統一は目前!! もう戦は無くなるぞ!!
信長は「金平糖より美味い菓子を考案すれば大手柄とする」と言ってました…
このトシで菓子作りなどやってられるか――!!

田舎→田舎


次に…早急に決めなければならない事がひとつ
織田家へ出す人質だ!!
ざわっ…
人質…
私が行こーか? 天下の安土城見てみたいし!!
言っとくが人質の行く先は滝川一益のいる上野国厩橋城だぞ?
じゃ行かなーい

引っ越しか!!


それに村松は行方知れずの夫・茂誠殿を待たねばならんし人質には出せん
うん…
というわけで母上行ってくれますか
ええよ
ばば様一人じゃ寂しいでしょう!! 私も行きます!!
昌幸の母 河原氏
信繁!!
心配です!! なら私も行きます!!
そんなに人質いりませんよー
山手が行くならワシも!!
さみしい!!
一番行っちゃダメな人が名乗り出たー!!

いっそ殺っとけ



初めて良かった





お初にお目にかかります滝川様!!
真田昌幸が次男・信繁!!人質として参りましたー
27 それでも乱世は終わらない
人質がチート
服が立派!! さすが織田家!!
あっ!! 最新式の鉄砲だ!!
こんなにはしゃいでる人質初めて見たな…
すみません新し物好きな息子でして
すごい!! 甲冑も頑丈そうだ!!
はははは
殴られたくらいではビクともせんぞー
ゴタンャ
父上ー瀕死にさせちゃった!!
初日から問題起こすなー

次世代戦法


そうだ!! 滝川様は
鉄砲の名手ですよね!!
ご指南お願いします!!
こら!!
滝川殿は
お忙しいのだ!!
他の者に頼め!!
まあまあ
熱心な若者は
嫌いではない
よし 近いうちに
教えてやろう
やった!!
馬上で片手で
お願いします!!
絶対
つよい!!
要求が
高すぎる!!

有名な逸話


ご子息は拙者が
責任持って
お預かりいたす
ご苦労
おかけします
殿から上野国を
与えられたはいいが
何せ右も左も
わからぬ土地…
今後いろいろ真田殿を
頼る事になると思う
はっ
重々承知
しております
ちなみに上野国よりも
茶器の「珠光小茄子」を
欲しがった事も
承知してます
それなー
却下されたん
だよなー

伸ばしまくり



あとがま狙い



転身失敗



閻魔もあきれる



別居確定


まだあります
その一族である姉上の夫・小山田茂誠(しげまさ)殿が…
生き残った小山田一族と共に北条家に身を寄せたそうです
真田家と北条家は何度も争った険悪の仲
北条家にあらぬ疑いをかけられぬためにも今 姉上を迎え入れる事はできないそうです
ですので姉上と茂誠(しげまさ)殿はしばらく離れ離れということに…

すぐ暴れそう


大丈夫だよ あのひとが無事ってわかっただけでも良かったし
そりゃあさみしいけど…
ほとぼりがさめるまで私 待つよ!!
村松…
ひと月でもふた月でも!!
月単位でしか待てないのか… その程度じゃ変わらないよな…

まだ二人とも30代



動き出す叛意




そういえば勝頼様の妹君…
松姫様はどうなったのですか？
28 いまようやく会いにゆきます
わからん…武田が滅亡して二か月いまだ消息不明だ
…あっ!!
いや…まさかそんな…
!!
何でもいい!! 言ってみろ!!
ワシが間違ってた
どこかに身を隠されていればよいのだが…
山手 場所に心当たりは無いか？
松姫だからどこかの松林に!!
やっぱり何でもは良くないいな…

美談の裏



そういえば元婚約者の織田信忠が松姫様の行方を探させてるらしいな
おっと信忠「様」か…
何があろうと想い続ける…まさに純愛ですね
ドンドン
すみません… 拙者 織田信忠様の家臣の者ですが…
松姫様いませんか… 見つけるまで帰ってくるなと言われてまして…
ばたん
部下はたまったもんじゃないな…

恋で暴君



織田信忠
信長の後継者で何でもそつなくこなし人望もある万能型名将
松姫どこにいるのだ… こんなに探してるのに…
えぐっ えぐっ
松姫様の行方がわかりました!! 武蔵国の寺にいるそうです!!
なにィー!!
絶対だな? 誤報だったらぶん殴るかんなー
恋してなけりゃ名君なんだけどなー…

戦国だからね



滅びても持ってきた



引き裂く言葉



再び乱世へ



どっちも悪夢



ちょっとずれてる



結ばれない二人



よく知らないけど恨む





本能寺の変から八日後 六月十日――
真田家緊急会議ー
㉙ あっちもこっちも大混乱
おにぎりできました!!
よし!!
まずは皆食え!! 腹が減っては会議はできぬ!!
ぱくぱく
あ…
逆もやります
ぱく
殿 ほっぺについてますよ
きゃーーー!! つい二人きりの時のクセが!!
やってんだ 二人きりの時…

夫にさえも



全然わかってない



「天正壬午の乱」の始まり



作るの苦手



ウワサをすれば使者



思わぬ吉報



約束は守る男



実はすでに遅し



いまだ戦国乱世



滝川一益は動けない




信長の死を知った北条氏政は即座に上野国侵攻を開始――
真田領
上野
信濃
甲斐
上野・信濃・甲斐国の争奪戦「天正壬午の乱」の始まりである
30 戦国バトルロイヤル開始
北条軍を迎え討つぞー
おー
滝川様!!
この戦を初陣にしたいと申すか…?それはできん!!
強烈デビュー
私も連れてってください!!
ばん
人質 真田信繁
いえ 先陣もしくは総大将やりたいです!!
わく わく
その百倍できんわー!!

来い北条


お主は真田家からの
大事な人質…
この危険な戦には
連れて行けん
…わかりました
ご武運をお祈り
しております
もっともワシが敗れ
北条軍がこの城に
押し寄せた時は
一緒に戦ってもらうかも
しれんがな
ご武運を
ちょっとお祈り
しております!!
わく
わく
減らすな!!

トンデモ城代


一方 真田家には
別の問題が発生していた
北信濃の国衆(小領主)が
続々と上杉家に
寝返った事である
真田本城
昌幸様も信繁も
別の城に行ってるし〜
上杉が攻めて来るって
ウワサだよ!!
当時 大名の正妻は
夫が留守の時
城主の代わりを
つとめていた
よーし私たちも
上杉家に付きましょー!!
勝手に寝返るのは
やりすぎです!!

イケイケ城代



怒りで強化



サラブレッド



小田原城
氏邦の軍が滝川一益に敗れただと?
北条氏政
まあいい 氏邦の軍は所詮 様子見だ
ズズ…
すでに我が子・氏直が大軍を率いて向かっている
北条氏康と武田信玄という怪物二人の孫がな
武田信玄
北条氏康
娘
氏政
氏直

全員名将



そうか滝川に敗れたか…
申し訳ございません!!
問題無い!!
オレは北条氏政を父に持ち…
北条氏直
北条氏康と武田信玄を祖父に持つ…
さらに北条氏綱を曽祖父に!! 北条早雲を高祖父に持つ…
いつまで続くんだ…
よっぽど血筋が自慢なんだな

二万vs三千



ワシはがんばった…!!



完璧な計算


行くぞー清洲会議
人質は後で返す!!
これで我らは織田家の力を頼れなくなった…
上杉と結んでおいて正解だったな
北条氏直は十中八九北上し上野国の制圧にかかるだろう…
だがそれなりに刻を要するはず!!
その間に守りを固め上杉の援軍が来れば…
ニヤリ
充分 北条軍を蹴散らす事ができる!!

天敵？


ところが
上野国は半分手に入れたし
なんかもーいいいかな
それより碓氷峠越えて信濃国攻めよーぜ!! そっちの方が面白そー
上野
信濃
え…
途中に真田の本拠地がある？
おーいいいねえ奪っちゃおうか
ガガピー
北条軍が我が本拠に進軍？
なんでじゃーわけわからんー
北条氏直の謎行動に昌幸の計算が狂う!!


北条氏直軍二万
矛先を上野国から
突如 北信濃に変更――
真田家は
またしても窮地に
追いこまれる
31 北条氏直縦横無尽
皆は
そろってるな
ザッ
ザッ
はい!!
その前に…
うむ その事だが
信濃国
木曽義昌領を
通過する時に――
不憫すぎます!!
人質の信繁は
どうなったんですか?
滝川一益様は
解放してくれたのですか?
通過の条件として
引き渡され現在は
木曽の元で人質中だ
人質から人質に?
そんなのありー?

空回り


待たせたな!!
北条の侵攻に関してだが…
父上!! 覚悟はできております!!
北条氏直を撃退し真田の力を思い知らせてやりましょう――!!
うおおお
いや戦わん
我らは北条に付く!!
ずこ――!!

これぞ戦国


すでに北条軍は目の前上杉の援軍も期待できん
しかし織田→上杉→今度は北条って…
父上には忠義というものが無いのですかー!!
何度も言わすなワシは武田以外を主とは思わん
大叔父上や頼康は?こんなに寝返って良いのですか?
ひとつ寝返るもふたつ寝返るも同じかなー
なんか楽しくなってきました
麻痺してるー!!

信幸とは従兄妹



能天気組



もう寝返りたい



手柄＆誘動



北の二名将



ワシの策が… 結構がんばったのに…
まーでも とりあえず攻めるだけ攻めてみようか!!
北条軍と上杉軍は千曲川を挟んで対峙する
北条軍は二万 上杉軍は八千ですが
この千曲川を堀代わりにすれば充分防げます
む
見せてやりましょう 景勝様
む
兼続

台無し



ところが
え・・・?
あー真田くん 真田くん
ちょっと事情が変わった
?
例の春日信達に確認の使者を送ったんだけど
使者が上杉に捕まっちゃって
寝返りバレて春日処刑されちゃったって
はあああ?

また変更



上杉組出番延期




北条氏直が縦横無尽に軍を動かしている一方
相模国小田原城――
上野
信濃
甲斐
相模
がつがつ
32 戦国遠距離夫婦
氏直様は本当に徳川と戦うおつもりです!!
北条家臣 板部岡江雪斎
のののの
この飯にかけるみそ汁のように…甲斐も信濃も上野も
全部飲む!!
氏直め…
まあいい予定とは違うが…
北条氏政
だぱー
北条の勢力で埋め尽くしてくれるわ――っとっと!!
またあふれた…本当にヘタだなあ…

うまいな!!


さて 過去に散々
我らにちょっかい
出しておきながら
このたび味方になった
真田昌幸についてだが…
おまえ詳しいらしいな
どのような男なのだ?
ははいっ!!
こうっス!!
顔はいい!!
失礼!!
体はこうっス!!
やめろキモイ!!

ワシも行かん!!


信用に足る男なのかと
聞いておるのだ!!
えーとー
えーとー
はっ
信用は…できないかも
しれないっス!!
遊びに誘った時
「行けたら行く」と言って
来たためしが無いっス!!
それはあるあるだ
参考にならん!!

関係者


真田昌幸は武田家臣時代は忠義者で通ってたっス!!
だから一応信用できる気が…
う～む…
だが奴は名うての策士…
江雪斎 警戒を怠るなよ
はっ!! 百も承知!!
ところでおまえ…
本当に真田家とは縁が切れてるのだな?
裏で真田とつながってるなんて事はあるまいな?

苦しい立場


あるわけ無いっス!! 妻とは別れたっス!!
我が一族は北条家に身を捧げる覚悟っス!!
わ わかった 退がってよいぞ
彼の名は小山田茂誠
ゴロゴロゴロ
うわあああん 村松っちゃんに会いてえよおお
一族の総意により北条家に仕える事になった村松の夫である

忠臣になりたい



父は嬉しいぞ



いくら忍びでも



結局飲まれた



血統に箔



こぼしたり吹いたり





この「天正壬午の乱」で最も勢力を伸ばしたのは
おおおおお
今日も北条軍を防いだぞー!!
「我慢」の戦国大名徳川家康である
33 二度ある寝返りは三度ある
家康はさらに「脱糞ぐせ」があり
う
安心したら便意が!!
「薬マニア」であり
ごくん
ふぅ…止まった…
亡くなった信長殿には悪いが今が勢力拡大の好機だぞ!!
あ信長殿だ
いるわけないでしょ
ごめんなさい信長殿好機とか言っちゃってー
ウソですよ
そして「ビビリ」である

これも戦略



そううまくは行かない



トラウマの名



理解されない天才



自由自在


正信…口先だけの男め…
一時期 徳川家を離れていたくせに…
ブツブツ
本多忠勝
ススッ
プリ
プリ
失礼 私の鷹が
おまえ今操ったろ!!
本多正信は元鷹匠

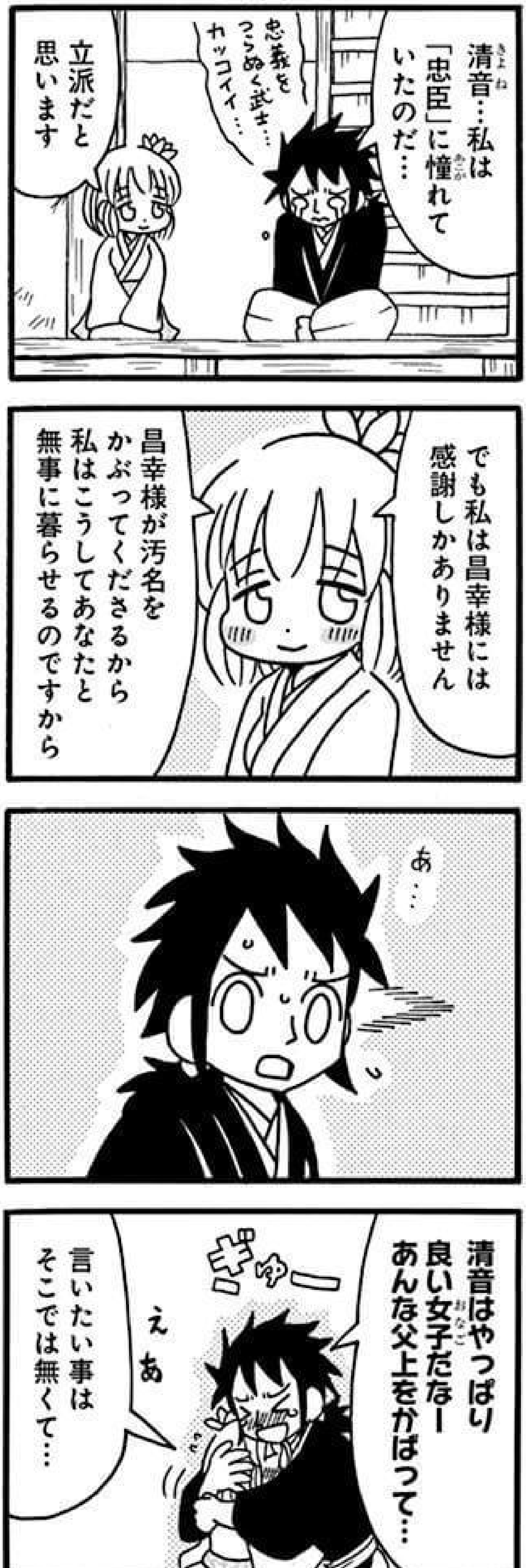
主役参入


徳川と北条の対陣が一か月を過ぎた頃
徳川陣営が起死回生の策を思い付く
どう思う？正信
名案ですね…
北条方の真田昌幸を
寝返らせれば徳川方の勝利は間違いありません!!

なんも言えねえ



でも嬉しい



出番の無い天才



受難の板部岡さん




真田昌幸
徳川方に付き
北条家分断に成功——
34 約束の地
戦況は徳川方に好転する
すごいぞ真田!!
こんなにあっさり裏切るとは!!
なんたる卑怯者だー!!
真田昌幸め…
わなわな
北条家も信長が死んだ途端裏切って織田家を攻撃しましたけどね…
言わんとこ

言っちゃう茂誠くん



待ってろよ旦那



物見いらず



簡単に下ろす



反省して!!


甲斐・信濃に固執するより上野の一国を確実に手に入れた方がいいい!!
ええー?
でも元々上野国狙いの出陣でしたよね?
上野
それを急に甲斐・信濃狙いに変更したの氏直様ですよ?
信濃
甲斐
キリッ
オレは過去を振り返らない主義なんだ!!
いやちょっとは振り返りましょう!!

こっちも勝手


和睦したいだと?
ぐしゃぐしゃ
不利になってきたからって勝手な事を!!
ぽい
ですが殿我が軍はもうボロボロです…
約束してた織田家からの援軍は送れなくなったそうです
羽柴秀吉と柴田勝家が争って…
しゅばっ
甲斐と信濃はくれると?
いい条件だ和睦するぞー

次の波乱へ



和睦って
まじかよ
父上…
さすが北条氏直… わけわからん…
まあいい… 徳川から約束の領地をもらうだけで良しとするか
これでしばらく戦は無くなるのですね!!
ほっ…
ちぇ～
こうして「天正壬午の乱」は終わりを迎える
しかし
その和睦の条件が・・問題であった

許諾無し



一、北条は甲斐・信濃の領地を徳川に渡す
二、徳川は北条の上野国領有を認め真田の沼田領を北条に渡す
三、北条氏直に家康の娘の督姫を嫁がせる
な…
何だその条件は…
真田の沼田領を北条に渡す
ふざけるな!!
我が土地・沼田を渡せだと?

そこは譲れない



逆境こその昌幸





天正十一年三月
昌幸は甲府の
家康の下へ出仕する
35 かけひき上手の真田さん
品名も書かないで
だらだらだら
真田怒ってるだろうな―…
勝手に北条に真田の土地渡す約束しちゃったからな―
キリッ
おっと!! 真田は徳川の家臣なのだ!! しっかりせねば!!
殿…
薬しまってください
ビビリがバレます
強心薬
いぐすり

他が出てこない



同列のつもり



主君でも譲れない



大胆交渉



シビアな参謀



どうせならすごい城を



できそう



お気楽山手さん



乱世だけどさー



まんまとやられてる




ぬううううう
沼田領を渡してもらえずイライラ頂点の北条氏政
36 譲れない土地がある
真田め!! どうしても渡さぬつもりか!!
徳川も徳川だ!! 真田を説得すると言って早や一年だぞ!!
おい!! みそ汁!!
はい!! ここに!!
また飯にかけてこぼしませんように
こぼすか!!
ヤケみそ汁するのだ!! ヤケみそ汁!!
ぐびぐび
ごばっ
好きなの？

そういう息子だ!!



「小牧・長久手の戦い」



やみつきになりそー



来ないのを祈る



民おかまいなし



禁断の手



最悪の毎晩



真田領近くの小領主室賀正武が我らの家臣になっています
この者に暗殺を命じましょう
しかし…暗殺は…
この乱世に卑怯などという言葉は存在しませんぞ!!
いや暗殺合戦になったら…
ワシ毎晩びびって糞もらし続ける事になるぞ!!
肛門引き締めてください!!

筒抜け



承知いたした!! 拙者なら真田に近付くのは容易にございます!!
室賀正武
真田は長年目の上のコブだった…
昌幸を消して真田の土地も我らのものにしてやる!!
ほーー
室賀がワシを暗殺しに来るとな

血の雨が降る



近付く決戦




家康による昌幸暗殺計画からおよそ一年
徳川が戦支度をしている!!
狙いは我ら真田家だ!!
37 やるときゃやる真田
覚悟決めた
ゴク・・・
徳川に真田の実力見せてやりましょう!!
と言いたい所ですが…
わかってます 私も慣れましたよ
戦うと見せてやっぱり徳川に付くんでしょー?
いや ここは戦う
ほえええ?

勢い余った



あの手この手で戦を避けて来たが…
沼田領を譲れだのワシの暗殺をたくらむなど徳川にはもう我慢ならん
ここで戦わねば真田の魂は死んだも同然だ!!
申し訳ありません…
てっきり父上は臆病者かと…
フッ
あと助平で意地悪で老け顔で殿様でも無ければ絶対モテないなーとか思ってました!!

運命？



徳川と戦うにあたり北の上杉と再び同盟を結ぶ!!
そのために二年間交渉を重ねてきた
ふるふる
戦…
い・く・さ!!
ついに…
ついに私も戦場に!!
信繁 上杉に人質に行ってくれ
また立ててない？

言わせろよ



なんかスマン



なぜ信じる



真田家の怪談



生き残る術



普通に外交問題

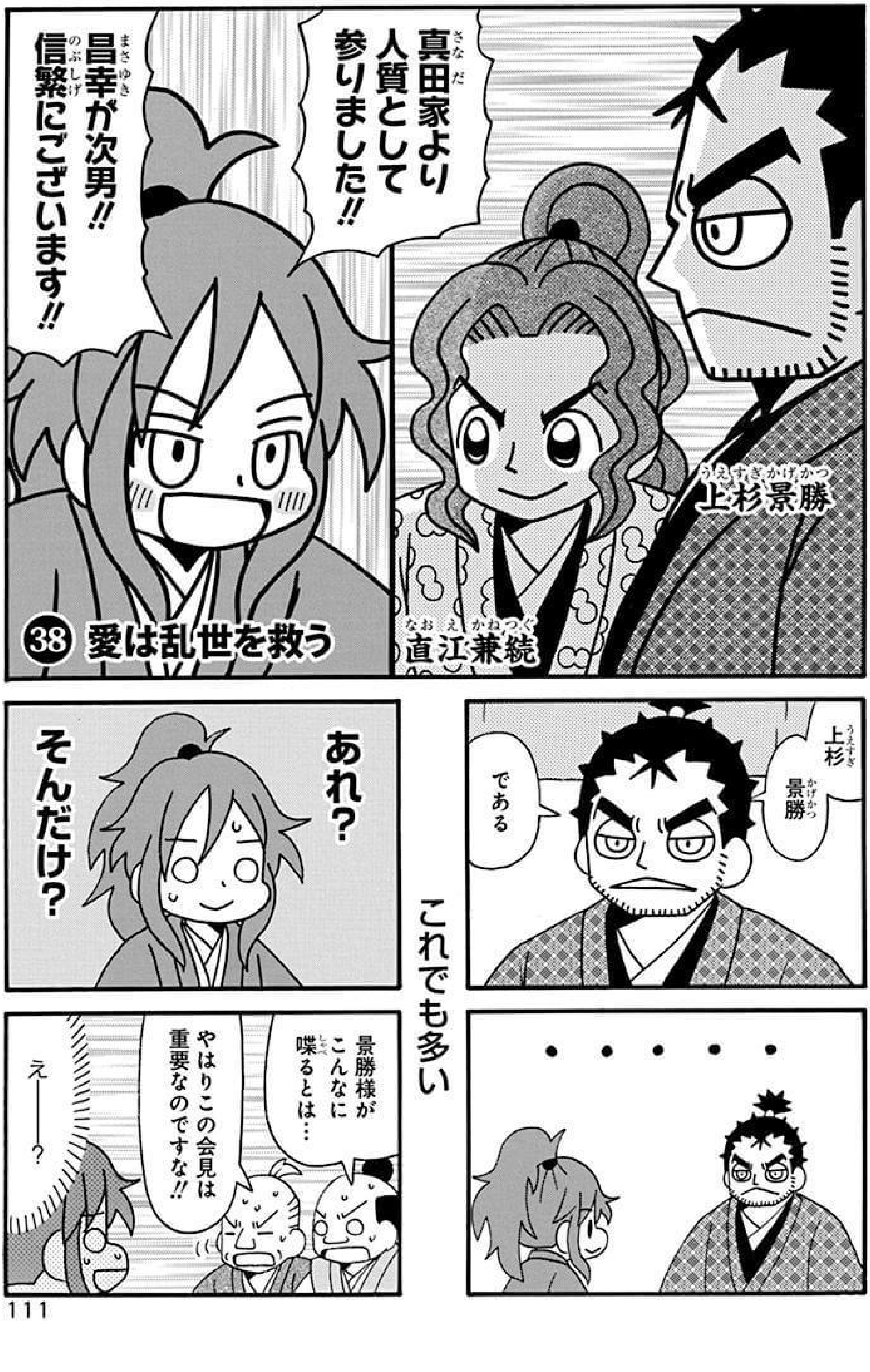


鍵を握る家



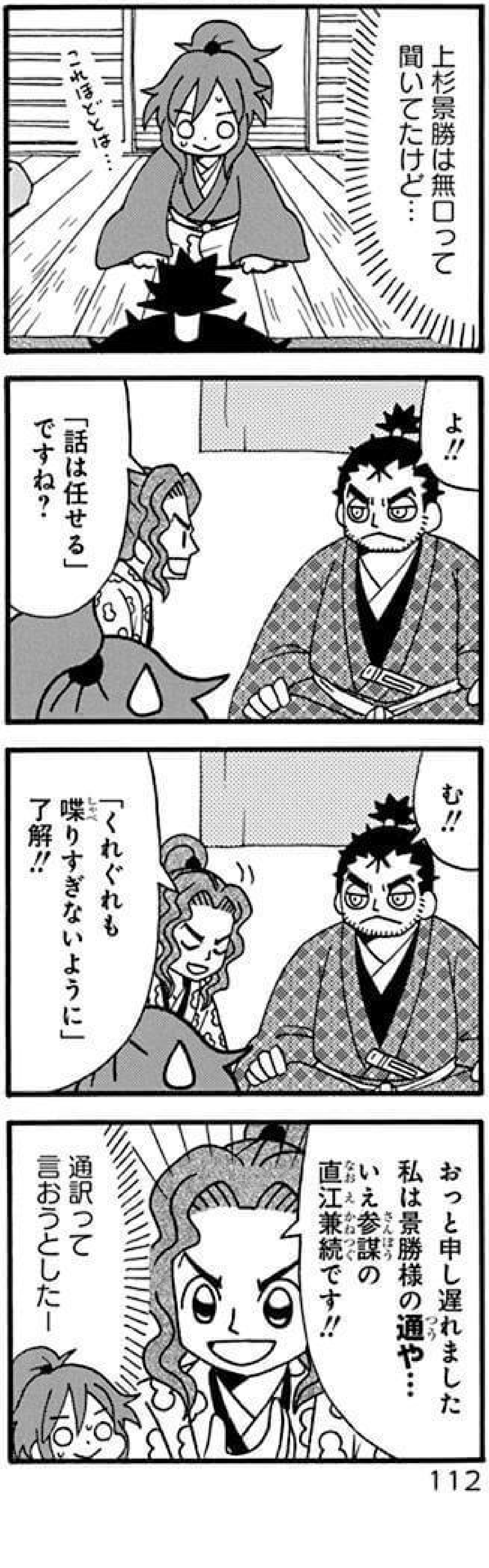
雪国の名主従





38 愛は乱世を救う
真田家より人質として参りました!!
昌幸が次男!! 信繁にございます!!
上杉景勝
直江兼続
上杉景勝
である
あれ? そんだけ?
これでも多い
・・・・・
景勝様がこんなに喋るとは…
やはりこの会見は重要なのですな!!
え——?

どちらも正しい



めっちゃ目立つ



謙信より継ぐ



突然の難題



慣れてない



な…
なーんだ
そんな事ですか
なに？
示す事ができると申すのか？
ガチ
長い台詞喋ったから舌かんだ――!!

根拠が自分



我が父は裏切りません!!
私がここに来ましたから!!
ほう…
父上は意外と甘いのです
私や祖母は人質としていろんな所へ行ってますが…
家族を人質に出してる間は一度も裏切っていない!!
私がここにいる限り真田は上杉に付き続けるでしょう
上杉家に真のお味方になってほしいから父は私をここに寄越したのです!!

大納得


たしかに北条には一族を人質に出していないし
徳川とは人質が返還されてから離れている…
おお…
真田昌幸は血も涙も無い男かと思っていたが…
ふむ…
「愛」はあるんです!!
あふれるほどの家族愛が!!
ぱぁっ
なら良し!!

言葉もいらない


真田が味方になるのは上杉にとっても心強い事…
ただもうひと押しが欲しかったのだ!!
やっぱり愛だな…
…
「家族愛なら負けぬぞ」
「ワシは妻・菊姫を愛しておる」ですね?
カー
何も言ってないのに当てた――!!
通じすぎるのも困るだろうな…

他にも欲しい



世間は真田を知る



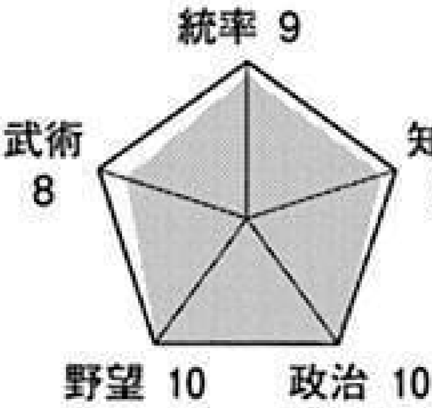
[第3巻に続く]



天正壬午の乱は
真田家以外の家も必死に
生き残りを図っていて
情勢変化が本当に目まぐるしいです。

重野なおき

戦国武将名鑑②





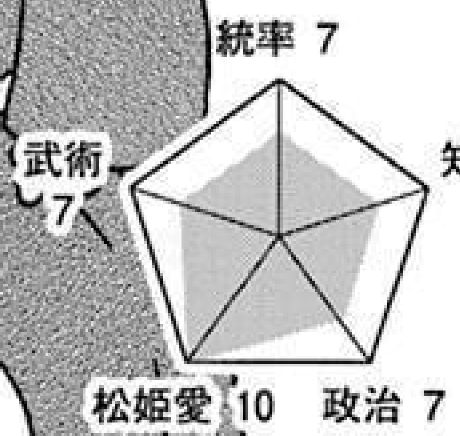
織田信長（おだのぶなが）

天下統一に
王手をかけた
戦国の覇者



織田信忠（おだのぶただ）

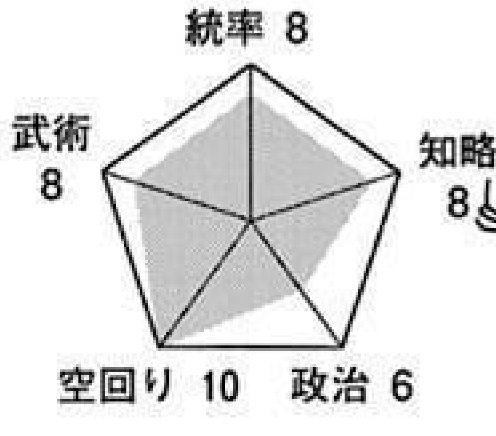
信長の嫡男
何事もそつなくこなす





滝川一益（たきがわかずます）

甲賀出身の織田家臣
「進むも退くも滝川」と
称された名将



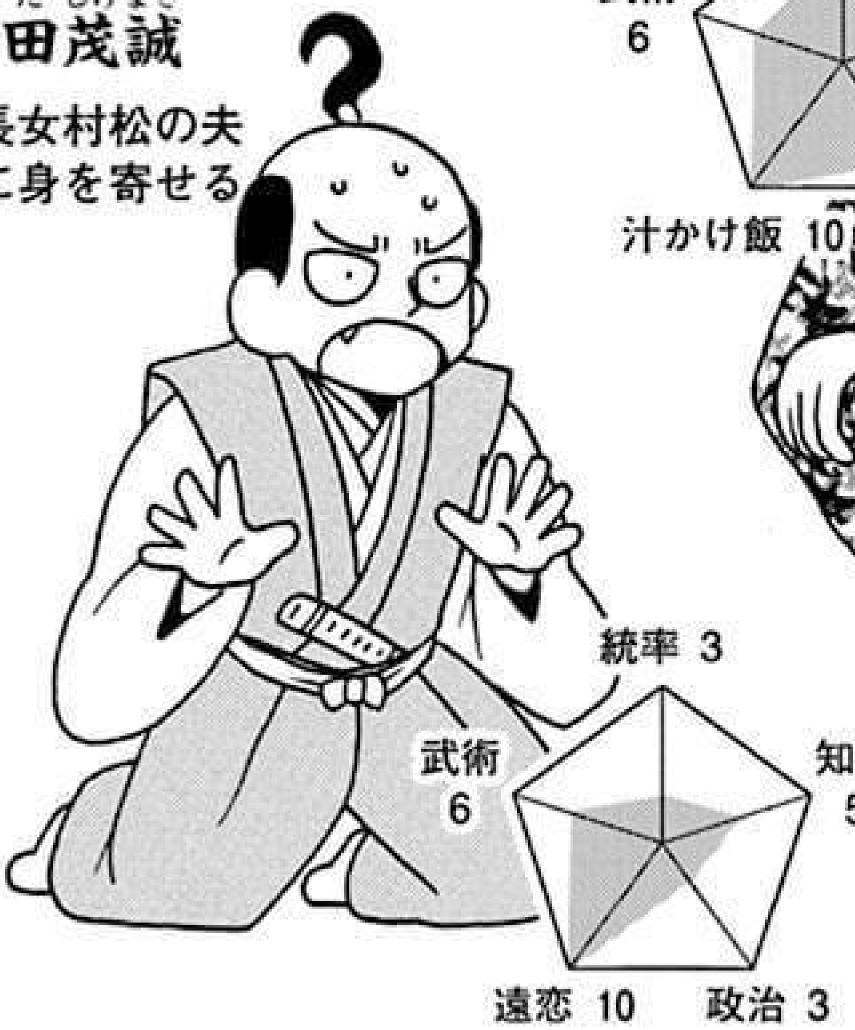
北条氏政（ほうじょううじまさ）

小田原城を拠点に
関東に勢力を伸ばす



小山田茂誠（おやまだしげまさ）

昌幸の長女村松の夫
北条家に身を寄せる



板部岡江雪斎（いたべおかこうせつさい）

北条家参謀
弁舌に優れる



北条氏直（ほうじょううじなお）

氏政の嫡男
母は武田信玄の娘





武川佑 × 真田魂

2巻刊行記念祝電寄稿

「岩村田城の戦い」

イラスト◎重野なおき

真田本城に詰めた真田昌幸は、一族の者たちに宣した。

「徳川は味方すれば領地をくれるという……決めたぞ、北条を捨て徳川に付く!!」

あいた口がふさがらない嫡男の信幸はじめ、皆が当主の決断に驚いた。

織田、北条とつぎつぎに帰順し、三度主君を変えるのだから、いくら戦国乱世とはいえ、仰天の行動である。

じつは、昌幸の寝返りを手引きした、一人の男がいた。

依田信蕃――。

昌幸とおなじく、武田家に仕えた士である。

◇

天正十年九月。

葉が落ちて見とおしがよくなった木々の上を、渡り鳥が鳴いて、南へわたってゆく。

断崖からおり重なる遠くの山々を見れば、黒煙があがっていた。北条方が寺社を焼き討ちしているのかもしれない。

昌幸は細い山道で、山嶺をあおぎ見た。

「真田郷より険しい山かもしれん」

小県郡真田本城より、南へ約十二里。佐久郡三澤。背後に蓼科山を抱く二子山の中腹に「三

澤小屋」と呼ばれる山城があった。

籠るのは昌幸とおなじく武田遺臣の依田信蕃、横田尹松ら甲斐の武士であった。

依田信蕃は駿河に徳川家康が侵攻したときも、つぎつぎと開城する武田方のなか、持ち城である田中城で徹底抗戦した将である。横田尹松はあの未曽有の高天神城攻防戦を生きのびた一人だった。

いずれも武田の猛者である。

その二人が籠城する城へ、真田昌幸は横谷左近たち忍びのつかう山道をつたって、秘かに入った。

解体され食された馬の骨があたりに転がり、痩せこけた兵の目はうつろだった。

「……これは、ひどい」

依田信蕃ら甲斐衆、信濃衆は、北条氏直に帰順することを拒み、本拠である春日城を北条方に陥とされたあとも、山奥のこの城に籠って単独で抗戦を続けていた。

麓は大道寺政繁率いる北条軍に囲まれ、数日おきに先兵が尾根ぞいに登ってきては鉄砲を撃ちかけ、数人ずつが死んでいく。諏訪から徳川方の援軍が来たものの、兵が増えたことによって、逆に兵糧の減りがはやくなった。

長い籠城戦で食料は乏しくなり、依田信蕃は一計を案じた。

——北条方の真田昌幸を、味方にひきいれる。

真田本城にいた真田昌幸のもとへ、信蕃からの密使が届いたのは九月の上旬だった。交渉を重ね、ついに昌幸は直接信蕃と話をすると決意したのである。

この様子では信蕃も、そうとうやられているだろう。

依田信蕃が上の曲輪から降りてきた。ところどころが破れた武田菱の四方旗を担いでいた。

やつめ、武田が滅んだのちも、旗を大事に持っていたのか。

「真田どの！」

背が高く筋骨たくましい男だった。しかしいまは頬がこけ、見るかげもない。横田尹松も転びそうになりながら走ってきて、三人の男たちはしっかりと手をとった。

信蕃は大きな手のひらで、昌幸の拳を叩いた。

「よく生きていたなあ！　よく——」

思えば最後に会ったのは、武田家が健在だったころだ。正月に当主の武田勝頼へ挨拶をしたとき以来だったかもしれない。たった八か月で、武田家は滅び、織田信長が本能寺で討たれ、甲斐や信濃は北条、徳川らの割拠するところとなった。

信蕃の声がかすれる。

「よく、生きておったな。昌幸よ」

混乱のなか、死した者たちもすくなくない。当主勝頼はもとより、長坂釣閑斎、穴山梅雪といった者もいまはこの世にいない。

自分を育て、登用してくれた武田家は、ほんとうになくなったのだ。

顔を伏せる信蕃を力づけようと、昌幸は肩を強く叩いた。

「わしが来たからにはもう大丈夫だ」

横田尹松があーっと声をあげた。

肩を叩かれた信蕃がしおしおと膝をついたのだ。

「ど、どうしたのだ⁉」

尹松が涙ながらに言う。

「た、食べるものがなくて、いまのが信蕃どのの最後の元気でした……」

信蕃と尹松の腹が盛大に鳴った。

「わーっ」

昌幸が持ってきた握り飯を貪りながら、信蕃は言った。

「徳川方についてもらえれば、昌幸には信濃の

一郡と、諏訪郡をやる。徳川どのの知行宛行状もあるもごもご」
「話すか食べるか、どちらかにせい」
徳川からの書状を見せてもらえば、たしかにそのように書いてある。
「よいのか？　諏訪郡はお前がもらいうける約束だったのではないか」
昌幸が問うと、信蕃は頬の米粒を取りながら答えた。
「なあに。俺は上野の土地を自分で攻め落として城を作るから、徳川どのからの土地はいらぬ。昌幸が獲れ」
そこまで自分をひきいれたいのか、と徳川の期待の大きさを昌幸ははじめて知った。
「しかし……」
信蕃は四方旗を示し、淋しそうに笑う。
「武田は滅びた。しかし俺たち武田の臣は滅んでいないと、世に知らしめたいのだ。北条氏直めにひと泡ふかせてやろうではないか」
胸に熱いものがこみあげる。昌幸は胸を叩いた。
「『武田の目』と呼ばれたわしが来たからには、ひと泡ではたりぬ。耳を貸せ」
信蕃は手を差しだした。
「手ではなく、耳だ」
「おかわり」
「そっちか！」

約一月後の十月二十一日。
三澤小屋を討ってでた横田尹松が、三澤小屋と真田本城との中間にある望月城を攻め落としたとの報が入った。昌幸も北条氏直にあてて同盟破棄の「手切れ」の書状を出し、信濃北東部の戦況は一気に動きだす。
南北に走る千曲川ぞいの街道では、真田と依田の兵が南北から挟撃し、北条方の荷駄隊を襲って兵糧を奪いとった。
そのころ真田郷を、小柄な人影が走っていた。
「ようやく木曾義昌の人質から解放されたー」
人質として抑留されていた昌幸の息子の信繁が、真田郷に意気揚々と帰ってくると、父と兄の信幸は、姿がない。
姉の村松が肩をすくめる。
「惜しいなーもう出陣しちゃったぞ」
「父上、兄上ぇ！」
信繁の叫びが真田郷にこだまする。
小高い丘から南を見れば、千曲川の流れにそって南北に平地が細長く続いている。
むむ、と信繁は絵図を手に戦況を確認した。
「碓氷峠を制圧すれば、上野の氏政と、信濃・甲斐に展開する氏直は分断され、氏直は窮地に陥る……」
父はつぎにどこを攻めるのか。
いとこの清音が来て、そっと絵図を覗きこんだ。
「碓氷峠のふもと……ここを押さえれば峠は通れなくなりますね」
峠のふもとにあるのは、岩村田城という城である。北から西へ蛇行している湯川という川に背後を守られ、西には千曲川が流れている。この城を押さえれば北条方の大道寺政繁が入る小諸城も孤立することになる。
信繁は目を見開いた。
「岩村田城ひとつ獲るだけで、北条が一気に傾く。父上の策は、すごい」
でも、と清音が言い淀む。
「湯川があるので、東と南からは攻められませんね」
「すると千曲川をわたって、西側から攻めるのかな……布陣は塩名田（しおなだ）あたりだろうか」
厳しい戦いになるかもしれない、と信繁は遠方をにらんだ。そんなとき思いだすのは、祖父、幸隆の言葉だ。

「おじいさまは言っていました。『絶対に勝てない戦など存在しない』と」

一方おなじころ。

御馬寄原（みまよせはら）という平原に着陣した昌幸は、千曲川をわたって塩名田に布陣、横田尹松らと合流した。岩村田城へは東へ約一里。遮るものはなにもない平野である。千曲川を背にした背水の陣であった。

岩村田城からはかすかな押し太鼓の音がして、土埃があがり、城から敵が討ってでたと知れた。

嫡男の信幸が、心配げに父を見る。依田信蕃の姿が見えないのだ。

「敵、城を出ました。依田さまはいずこに？」

昌幸はにやりと笑った。

「真正面から当たっては勝てぬ相手。手をうった」

「……依田さまはその『手』ですか？」

昌幸はとぼけた。

「さあな。信幸覚えておけ。絶対に勝てない戦など、存在せぬ」

横田尹松が足軽たちに声を飛ばす。

「竹束据えろ。敵と当たるぞ」

土埃は見るまに大きくなって、鬨の声が聞こえてくる。

地面を揺るがす馬蹄の響き、押し太鼓の音。

昌幸は鑓を握りしめた。足から震えがのぼってくる。戦の前はいつも身震いがする。

いまは一人ではない。

居並ぶ男たちは陽に焼け、険しい顔を前にむけて、じっと敵がちかづいてくるのを待っている。

ああ、武田の戦がもう一度できる。

敵がやってきた。戦列を整え、火縄銃を撃ちかけてくる。こちらは前面に竹束を据え、応戦する。竹に弾かれた弾が四方八方に跳び、焦げた臭いがたちこめる。竹束を貫通して手や肩に銃弾を食らう兵もいた。うめき声があたりからあがる。

昌幸は微動だにせず命じた。

「耐えろ」

首をちぢこめて雨のように撃ちかけられる弾をやりすごす。

こんどは騎馬が攻めかかってきた。馬が前脚を高くさしあげて、竹束の列に突っこんでくる。竹束を押さえる兵の肩口を斬り、馬で踏みつけて、隊列が崩れたところからどっと乗りいれてくる。

昌幸も必死に声を張りあげた。

「鉄砲射かけろ、崩させるな！」

味方の火縄銃が火を噴き、至近距離で弾を食らった敵騎兵から血飛沫が散った。馬上に突っ伏したところを足軽が鑓で突き、引きずり降ろして首を掻き切る。

けれども敵の数がおおく、しだいに押されていく。

息子の信幸が悲鳴をあげる。

「このままでは……敗けまする！」

まだ、敗けぬ。

「まず一手」

遠くで、敵の押し太鼓とは別の鉦が鳴った。岩村田城から煙があがっていた。

「父上、敵の城から狼煙が」

ひとつ手が動いた。

「敵に調略をすでにかけ、内応を誘っておる。さあこれで逃げ場はないぞ」

敵は前後を挟み撃ちにされるかたちになり、窮地に陥った。これで投降するかと思いきや、退路を断たれた敵は死にものぐるいで向かってきた。

耳をつんざく怒声をあげ、横列を組んで鑓を高くさしあげ、竹束を越えて長い鑓の穂先をうちおろしてくる。

敵の火縄銃の弾が兜のしころを撥ね飛ばし、昌幸の頬からひと筋、血が滴った。

「父上っ」

「大事ない」

昌幸は前を見据え、手で信幸を制した。頬が焼けつくように熱い。汗が流れ、血と混じって顎から落ちてゆく。

「つぎ、一手」

南側から喚声がおこった。敵の横腹を突いて、伏兵があらわれたのだ。

「依田信蕃、ここにあり！」

金の日の丸の前立をいただいた兜に、黒糸縅の素懸鎧を身につけた大柄な男が、最前列で武田の旗を掲げた。

味方から歓声があがる。昌幸は采配を振って命じた。

「押せ、いまが時ぞ」

敵騎兵に火縄銃をいっせいに撃ちかける。西と南から敵を挟撃するのだ。

「わしらも討ってでるぞ！」

昌幸も前線に馬を進めた。薄青の空に雲が高く流れ、雁が群れをなして飛んでゆく。南から攻めあがってきた依田信蕃と目があった。

「真田ァ、一番鎗は渡さぬぞ！」

「ぬかせ」

昌幸は馬の腹に蹴りを入れ、信蕃の馬に並走した。

そのとき、敵に反撃を受け、信蕃が掲げる武田菱の四方旗が折れた。旗竿は群れる兵の隙間にかくれ、すぐに見えなくなった。昌幸は手綱をひいた。

「旗が――」

武田の旗が。

昌幸は目が眩んで怒りのままにそちらへ馬を飛ばした。横あいから鑓が伸びて、馬の腹を刺す。昌幸は宙に投げだされた。

「ううっ」

馬から落ちた昌幸目がけて、敵足軽が殺到する。脇差を抜いて数人斬り伏せたが、すぐに囲まれた。

――馬鹿をした。

「ぼさっとするな！」

囲みが割れ、猛然と信蕃が斬りこんで、昌幸を後ろにかばった。

「すまぬ」

信蕃は鑓を左右に振り、崩れかかった敵の囲みに突っこんでいく。向かいくる敵の胴へ、ずと鑓の穂先を押しいれて薙げば、敵が馬上から落ち、足軽がとどめを刺した。家臣が慌てて寄せてきて、昌幸も替えの馬に乗り、囲みを脱した。見れば味方が敵を追いちらし、つぎつぎと討っていく。

信蕃の、苦しげな声が聞こえた。

「昌幸、あれはただの旗だ」

「――わかっておる」

震える手で、昌幸は手の鑓を掲げた。

「このまま岩村田城を陥とすぞ！」

味方が応じて、鑓の尻で地面をたたく。地を蹴り、うなり声をあげて岩村田城まで殺到し、半刻後、内応者が城門をひらいて開城した。挙げた首級の数は二百をこえた。

昌幸と信蕃、そして尹松の大将三人が鑓を掲げ、祝砲を撃つ。

「勝鬨あげろ、我らの勝利じゃ。良い」

「応」

信蕃は折れた四方旗を持ってきて、火をつけた。驚いて止めようとすると、信蕃はゆっくりと首を振った。

「これはもう、必要ない」

「信蕃……」

「武田は滅んだ。我らはそれでも歩かねばならぬ。魂だけ、持ってゆけ」

あちこちから、すすり泣く声が聞こえてくる。みな、武田の旧臣たちだ。

燃えゆく武田菱の旗を、昌幸はじっと見つめた。炎に舐められ、この世から消えてゆく。心のなかで自分を押さえつけていたものも、とも

に燃えゆくように感じた。
夕闇が迫り、長い山の影がゆっくりと平地を覆っていく。空に星が瞬きはじめ、兵たちはのぼる煙を目で追って、空を見あげていた。
信蕃の呟きが耳に届く。
「楽しいときも、苦しいときも、わしは決して諦めんぞ」
昌幸は頷く。
「真田もそうだとも」
二人は目と目をあわせた。信蕃の目は、もうすでにつぎの戦場を見ているのかもしれない、と思った。
「生きるぞ、信蕃。生きてこその我らだ」

◇

その後、碓氷峠を制圧されて窮地におちいった北条方と徳川方との和睦が成り、依田信蕃は莫大な恩賞と土地を得る。
しかし、翌天正十一年二月。
信濃佐久の城を攻め落とそうとした際に銃弾を浴び、その傷がもとで信蕃は亡くなった。
その報せを聞いた昌幸は、一人目を閉じた。
人はあっけなく、はかなく死んでいく。
「生きてこその、我らだ」
目を開けば、信幸に信繁、村松ら真田の子供たちの顔がある。
まだそちらには行けぬ、と心の中で呟いた。
「決して諦めぬ。それが真田の魂だ」
見ていろ、信蕃。



message

重野先生の『信長の忍び』シリーズは、
戦国時代にまったく疎かった私に面白さを教えてくれた、先生のような作品です。
分かりやすく、詳しく、面白い！ こんな奇跡があっていいのでしょうか。
「岩村田城の戦い」は、真田昌幸、依田信蕃、横田尹松といった
（登場させられなかったのですがたぶん岡部正綱も！）
武田家の遺臣たちが集結するオールスターな一戦です。
重野先生の原作の行間で、こんなこともあったのかも、
と楽しんで頂けたら嬉しいです。

武川佑

たけかわ・ゆう
2016年、『鬼惑い』で第1回「決戦!小説大賞」奨励賞を受賞。
2018年、デビュー作の『虎の牙』で第7回歴史時代作家クラブ賞新人賞を受賞。
2019年4月ごろ、2作目となる『落梅の賦』刊行予定。

●初出一覧

「ヤングアニマルDensi」
2016年５月13日公開・６月３日公開・７月15日公開・８月12日公開・９月９日公開
10月21日公開・12月９日公開
2017年１月20日公開・３月３日公開・４月21日公開・６月16日公開

「マンガPark」
2017年８月23日公開・10月25日公開・11月29日公開
2018年１月３日公開・４月４日公開・５月23日公開・８月29日公開・10月10日公開

を再編集の上、収録いたしました。

YOUNG ANIMAL COMICS

真田魂②

デジタル版

著者　重野なおき

発行者　高木靖文
発行所　株式会社 白泉社
発行日　2019年2月1日

真田一族年表

天正十（一五八二）年

月	出来事
三月	武田家滅亡
	昌幸　織田家に従属
六月	本能寺の変が起こり天正壬午の乱が始まる
	昌幸　上杉家に従属
七月	昌幸　北条家に従属
十月	昌幸　徳川家に従属
	徳川・北条が和睦し天正壬午の乱が終結



天正十一（一五八三）年	四月	上田城築城開始
天正十二（一五八四）年	六月	家康　室賀正武に 昌幸暗殺を命じるが失敗
天正十三（一五八五）年	七月	昌幸　上杉家に従属 信繁を人質に送る



白泉社